

巻頭言

児童教育学部長 服部 幹雄

地域連携は、大学がその研究・教育資源を活用して地域社会の発展に寄与する活動です。ここには、地域が大学の知の発信を得て多様な課題を解決する側面とともに、大学の学生・教職員が地域に即した実践的な経験を積み、それを研究・教育活動に還元していく側面もあります。後者について言えば、学生が地域社会との相互作用のなかで視野を広げ、課題解決力や社会的スキルを高めていく過程も重要視されています。

児童教育学部では、長年に渡って教員・学生が教育・保育施設にボランティアとして出向き、イベントやワークショップを通して子どもの成長や子育て環境を支える活動に取り組んできました。一例を挙げると、本学部が長年参加している名古屋土曜学習プログラムでは、教員が小学生を対象に音楽・造形・科学実験などの体験学習を提供しています。学生も「いきいきサポーター」として参加し、子どもたちの活動をサポートします。子どもたちは、活動を通して通常の学校教育では体験できない多様な学びを楽しむことで興味を持った分野に対する理解が深まり、学びの意欲が高まります。学生

たちも自らの専門性を活かして地域社会と関わる喜びや意義を実感しているようです。

大学の立場から言えば、このプログラムは教員の研究成果や教育力が遺憾なく発揮される場であるとともに、学生が子どもたちとの交流を通してコミュニケーション力や社会貢献意識を高める貴重な成長機会ともなっています。本学部は、今後も教育者・保育者養成に加えて、地域社会全体で子どもたちを支える視点を大切にしていきます。

大学全体では、各学部の強みや専門性を活かした地域連携活動が活発に行われてきています。これらが地域の課題を解決することに貢献し、その文化的豊かさを育んでいることは言うまでもありません。その一方で、これらの活動が大学の教職員・学生にとっても大きな刺激となり地域活性化の活力源ともなることが望まれます。地域社会と共に歩む大学の役割を改めて自覚し、今後も地域連携の促進に努めていきたいと思います。

● 生活環境学部・児童教育学部

令和6年度から実施

愛知万博20周年事業「愛・地球博20祭」

令和6年4月から生活環境学科では愛知万博20周年記念事業「彩の回廊」に参加しています。これは愛知万博開催から20周年を記念して、愛・地球博記念公園内に愛知の多彩な魅力を発信する空間を県内の大学に通う若者たちが協働して大学ごとに制作し、展示することで愛・地球博の理念を継承していくことを目的としたイベントです。一年間かけて企画会議に参加し、議論を重ね、テーマを具体化するデザイン作成に向けて取り組んできました。題材に選んだものは本学が生活の豊かさを継承する伝統として連携してきた「尾州織物」です。地域産業である布の可能性を生活の中での原風景をテーマとし



完成パース



会議での発表風景

たインスタ映えする空間として表現し、愛知の多彩な魅力を空間で表し、伝えていこうと考えています。いよいよ実物制作を実施。令和7年5月31日から6月22日まで愛・地球博記念公園内、愛知県児童総合センター前の丘にて展示が行われます。ぜひご来場ください。

児童教育学科からは理科教育(物理)ゼミの学生がワークショップブースを出展します。「エネルギーを使うということの意味を知ってもらう



こと、再利用して生かすこと」をテーマとしてゴムで動くおもちゃづくりを企画しています。参加者がゴムに溜めたエネルギーで動くおもちゃをつくり、その原理と動作を知ること、エネルギーを使うということを考えていただくものです。8月の実施に向けて、現在、学生がワークショップの内容やおもちゃづくりの工夫を行っています。



ワークショップの内容を発表

● 医療科学部

令和6年7月14日実施

第31回 中部障がい者水泳選手権 大会運営への協力

7月14日(日)、理学療法学科10名の学生は、障がい者水泳選手権大会にボランティア参加しました。この大会は、毎年中部地方を中心に開催され、連盟に登録した身体障がい者や知的障がい者が参加します。蒸し暑いプールサイドで、選手の招集やコースへの誘導などの役割を笑顔でこなしていました。学生にとっては、講義や教科書で学んだ“障がい者”の活躍する姿を実際に見て、言葉を交わすことで多くのことを学び、体験する良い機会となりました。



大会終了し、立て看板にて記念撮影

● 児童教育学部

令和6年4月29日実施

第20回 あさひ健康フェスタ (尾張旭市)にボランティア参加

児童教育学科の学生13名が、尾張旭市「第20回あさひ健康フェスタ」にボランティア参加しました。「あさひ健康フェスタ」は、「からだ・こころ・まちの健康」をテーマに開催されています。市職員の方々のサポートとして、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の対応をさせていただきました。今年度は「あさひ体操」も披露され、一緒に体操をさせていただきました。公職のお仕事を垣間見ることのできる貴重な機会でもあり、保育・教職に就くことを希望する学生にとって貴重な体験となりました。



13名の学生がボランティア参加。いい笑顔！

● 医療科学部

令和6年6月～令和7年3月(計5回)実施

健康アップ教室の開催

医療科学部では、令和6年度全6回にわたって「健康アップ教室」を開催しました。この教室は、地域住民の介護予防と健康寿命の延伸を目的としており、学部教員が主に企画・運営を行いました。毎回25名程度が参加し、運動器の障害を主としたロコモティブシ



「転ばないための体づくり」でのボール体操

ンドローム、腰痛・膝痛、転倒、認知症、うつ・閉じこもりをテーマに、講話と実技を交えて楽しく実施しました。また、第4回目は理学療法学科3年生、第5回目は作業療法学科3年生が、授業の一環でグループに分かれてテーマに沿った体操等を考案し、学生が主体となって進行了。学生にとっては在学中から



「認知症は怖くない！—生活の工夫—」での宝探しゲーム

実践的な地域貢献事業の一端を経験する貴重な機会となりました。また、参加者との交流を通じて地域の方々とのつながりを深める場にもなり、本学部として地域住民の健康増進に寄与できる取り組みとなっています。今後も地域住民の健康づくりに貢献してまいります。

● 健康科学部

令和6年5月26日実施

旬の家族フェス2024に ボランティアスタッフとして参加しました！

5月26日(日)、一宮市で開催された、チアフル・ママ/NPO 法人 ORR 社会貢献センター主催の「旬の家族フェス2024」に、看護学科の学生19名がボランティアとして参加しました。

当日は約4,000名の方が来場される中、各種イベントが行われ、約20社の企業ブースの出店がありました。学生はイベントや企業ブースの中で、子どもたちのお仕事体験や選挙体験、リボンライダー啓発活動等、様々なブースで奮闘し、地域の方々との交流を深めることができました。

今回のボランティア活動を通して、「こんなに沢山の地域の方と触れ合うことは



学年の枠を超えて、イベントに参加

中々体験できないので、とても良い体験ができた」、「慣れないことも多かったけれど、子どもたちのキラキラした笑顔やありがとうの言葉で頑張ろうと思えた」、「子育て世代の家族を地域全体でサポートしていることがすごいと思った」等、学生にとっても地域の力を支援することの大切さを体感することのできる特別な機会となりました。



子どもたちに大人気のお面作り！
素敵なお面がたくさん完成

● 短期大学部

令和6年11月23日実施

スポーツ・ライフ in 瑞穂への参加

保育学科では、福祉マイ
ンドを備えた保育者の育成
を目的としてボランティ
ア活動を推進しています。
11月23日(土・祝)に名
古屋市が主催する「スポ
ーティブ・ライフ in 瑞穂」
に参加し、有志の学生が
ブースを企画・出展しまし
た。このイベントは、毎年



異なる学年・クラスから参加の保育学科生

恒例の行事として約10年にわたり続いています。保育学科の学生にとって、専門的な知識や子どもとの関わり方を実践する貴重な機会となります。イベントは、2025年に開催されるアジア競技大会のメイン会場であるパロマ瑞穂スポーツパークで行われました。参加した学生は、授業で学んだ保育に関する知識や



来場の親子と交流しながらボール遊び

技術を活かし、「身近なものを生かした遊び」をテーマに、子どもたちと共に制作や運動を行う場を提供し、約200名の子どもたちが本学のブースを体験しました。参加学生は、幼い子どもたちに対しても丁寧に接し、今回のボランティア活動を通じて子どもへの対応力や実践力を高める貴重な経験を得ることができました。

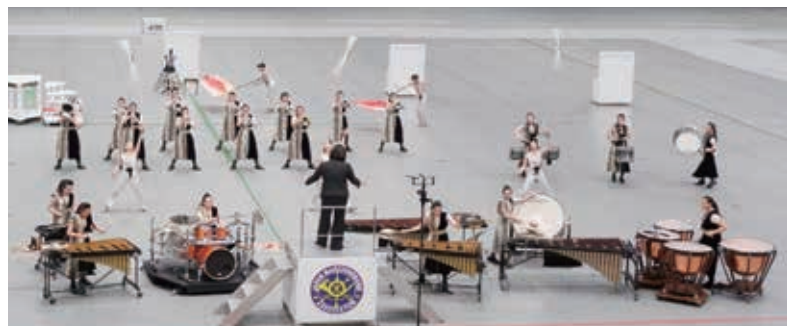
● 中学校高等学校

令和6年7月24日実施

奏楽マーチングバンド部
防犯講演会&コンサートの参加

7月24日(水)、吹奏楽マーチングバンド部は熱田警察署生活安全課からの要請により、熱田区白鳥学区の「夏の青少年を守る運動」の一環として防犯講演会&コンサートに参加させていただきました。

会場の熱田文化小劇場(熱田区役所に併設)には、熱田区長をはじめ、熱田警察長もご列席されておりました。熱田警察署の警察官の皆様による特殊詐欺防止の講演や分かり易い演劇なども披露され、沢山の皆様が熱心に楽しく講演を聞いておられました。私達マーチングバンド部は今年度の全国大会へ向けて練習をしている日々でしたが、このコンサートで演奏できることを光栄に思い、新入部員となった高校生・中学生の10名を含む27名で懸命に練習に励みました。当日、会場の皆様からいただいた沢山の拍手には地域の皆様の温かい応援を感じました。



令和6年第52回マーチングバンド全国大会の様子

● 短期大学部

令和6年度実施

さくらスイーツマップ

瑞穂区役所が進める「サクラのまち瑞穂づくり事業」の一環として、さくらにちなんだスイーツを紹介する「瑞穂区さくらスイーツマップ」を生活学科2年生8名が作成しました。スイーツのイメージに合わせた対象14店舗のロゴマークや、マップ中にあるイラストなどを作成する際には、今までに学んだ情報技術を応用することができました。瑞穂区役所の方に来校していただき、優秀作品を選んでいただきました。3月下旬から瑞穂区ウェブサイトに掲載されていますので是非ご覧ください。



掲載された「さくらスイーツマップ」を手にする学生たち

● 中学校高等学校

毎月実施

老人施設での
ボランティアを通して

毎月1回、八事にある高齢者施設でボランティア活動をさせていただくことが長年続いていますが、ようやく活動が再開となりました。しかし感染の危険が消えていないため、長期に渡る感染対策の大変さを、活動の度に感じます。高齢者の命を預かっているという責任の重みが、スタッフさんの言動や掲示物の内容から見え、そのような緊張感のある日々の中でも活動を受け入れて下さることに感謝です。少しでもお役に立てるよう、活動させて頂いています。



車いすの清掃中

越原記念館が 名古屋市 高齢者はつつ 長寿推進事業に協力

名古屋市が推進する高齢者はつつ長寿推進事業はレクリエーションなどを通じて、地域活動への参加促進を目指す事業です。瑞穂区ではコスモスの愛称で同区社会福祉協議会が受託しています。

今回、越原記念館と同協議会が地域連携「お出かけ企画」として記念館の写真展「山崎川いまむかし」をはじめ、企画展「近世の村すがたを映す越原家庄屋」の見学講座を実施しました。機織り実演や記念館クイズも行い、10月に瑞穂区内8地域から171名が参加しました。



講座風景

瑞穂生涯学習センター共催公開講座

オープンカレッジ事務局では、毎年、瑞穂生涯学習センターと共催の「公開講座」を実施しています。今年度は「認知症を正しく知る ～自分のために、大切な人のために～」をテーマに、本学ヘルスケア研究所杉本八郎所長、看護学科富澤米子教授、作業療法学科今井あい子講師が、それぞれの専門分野から認知症についての講義を行いました。講師は話をだけでなく簡単なテストを行ったり、実際に身体を動かしたりするなど、2時間の講義に工夫を凝らし、のべ122名の参加者は講義中に熱心にメモを取ったり、講義終了後も講師に質問したりする様子がみられ、どの回も充実した講座となりました。



熱心に講座を受講する様子

参加者の年代は40代から80代まで幅広く、自分自身の予防のためだけではなく、身近な認知症の方への理解を深めるためなど目的は様々でしたが、本講座が受講生の皆様の糧となったことを願うとともに、今後も地域貢献につながるような講座を実施してまいります。



自宅でもできる認知症予防運動「コグニサイズ」

ローリングストック食材を使った 子育て支援レシピコンテストの開催

総合科学研究所が推進する「開かれた地域貢献事業」は、令和6年度も瑞穂児童館、瑞穂保健センター、瑞穂区役所それぞれと連携し、子どもから高齢者の方までたいへん多くの方々に参加いただくことができました。

瑞穂区役所との共催事業では、瑞穂区の子育て世帯の支援を目的としたレシピコンテストを開催しました。今回は「ローリングストック食材」をテーマとし、パックご飯や缶詰、乾物等を使用したレシピを公募しました。瑞穂区の子育て世帯、中高生、本学学生から多くのレシピが応募され、事業を通して子育て世帯の支援、さらに防災意識を高めることができる企画となりました。またコンテストの最終審査会は大学の調理室で行われましたが、希望者には調理中託児を行いました。瑞穂区の託児グループの方に指導いただきながら、有志の学生達も託児運営に参加し、貴重な学びの場にもなりました。



参加者同士の試食も行った最終審査会

今後とも地域との連携を一層深めながら、本学の特色を活かした地域貢献事業を継続して参ります。



調理中は未就学児の託児を実施



研究所のHPで過去の入賞レシピを公開しています。

編集後記

地域連携ニュースレター第8号をお届けします。大学・短大、中学校・高等学校、越原記念館などからの報告により、学園全体の地域連携活動についてお伝えすることができました。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。令和6年度も瑞穂児童館や瑞穂区役所との連携活動が継続して実施されるとともに、「健康アップ教室」の開催、「旬の家族フェス」への参加など、新しい活動も行われました。各々の活動において、学生や生徒が日頃の学びを活かしながら、貴重な経験をしている様子が伝わってまいります。今年度は名古屋葵大学スタートの年です。名古屋葵大学がめざす共創社会で活躍し続ける人材の育成においても、地域連携活動は大変有意義な取り組みであると言えます。今後も様々な活動が継続していくことを期待いたします。

(山中なつみ)